



大自然×ビジネス



ワクワクがギッシリ!
自然資源の宝庫が
キミを待っている!!

LET'S OPEN!!

農 東京農業大学

生物産業学部 (北海道オホーツクキャンパス)

自然資源経営学科



自然資源 natural resources

鉱物資源(エネルギーを含む)
生物資源(作物・動物)
河川、湖沼などの水
気候、気象、景観

人間生活や社会にとって、健全な自然生態系や環境を維持することで、農業をはじめとする第一次産業(漁業・林業)や関連産業(食や観光)が成立している。

当学科では、大地・森・海などの自然資源を活かして環境共生と地域ビジネスを実践的に学びます

【オホーツクで自然資源経営学を学ぶ意義】



農大で唯一
「経営学士」の
学位を授与

- 1 良質な自然環境と自然資源(生産原料)の存在
- 2 裾野の広い生物産業ビジネス(自然→生産→加工→流通→ビジネス)
- 3 経営基盤に優れた1次産業、自然と調和し環境に配慮したビジネス

ここには自然環境、生産から商品開発・販売までビジネスモデル全体をリアルに体験できるフィールド環境がある!!

自然資源経営学科 学びの実例

Example 01 オホーツクにおける鳥獣利活用の実態を学ぶ

北海道オホーツクキャンパスにもなじみのある鳥獣を対象に、その産業的・商業的価値よりどのように地域活性化につなげるか? つなげられるか? を現場への視察から考えます。



エゾシカ捕獲の仕掛け置の中



エゾシカ捕獲の仕掛け置の中に入る様子



エゾシカ捕獲の仕掛け置の中



エゾシカの養鹿と加工品開発に取り組む知床エゾシカファームの見学

着眼点

環境保全+新たな地域ビジネスの創出

エゾシカの頭数管理

エゾシカの有効利用

エゾシカの養鹿ビジネスの創出

地域資源の価値の見直しを通じて、新たな地域ビジネスを創出する

Example 02 学生自ら生産→加工→ビジネス(販売)を実践する

文系の学科だと、作物を作ったり、加工品開発ができないというわけではありません。自然資源経営学科の学生は研究室の活動やサークル活動を通じて、実際に野菜を栽培→加工→販売を通じて、農業の6次産業化を実践しています。



畑の開墾作業



学生で耕した畑と学生たちで設置したハウス+収穫の様子



バジルソースづくりの様子



収穫した野菜

着眼点

実際に農業、加工品開発、販売の体験を通じて、大学で学んだことを実践する

実学主義の体現

Example 03 体験型観光を推進するConnecttrip(コネクトリップ)との連携

オホーツク地域には、豊かな自然資源に基づく地域産業、地域資源や観光資源を用いたビジネスが展開しています。そのなかで、地域が歩んできた歴史や文化、農業や観光業などの地域産業をconnect(コネクト)し、新しいtrip(旅)を創造し、四季を通じて体験型観光を推進するConnecttrip(コネクトリップ)と連携した実践的な学びを行っています。



例えば

例えば、少人数のゼミを単位に、地域食材(オホーツク産小麦粉、海産物)を活用したピザづくり体験を通じて、新たな商品・サービスの提案をしたり、地域活性化のための方策を実践的に学びます。



学生の実践的学びやチャレンジを教員、地域企業で応援・サポート

- オホーツクには、地域に根ざした企業活動を行っている事業者や農業の6次産業化に取り組む生産者も豊富に存在します。
- 少人数ゼミの小回りの良さを活かして、地域と連携した実践的な学びを提供します。

4年間の学びの特徴

少人数制のゼミナールでグループワーク 幅広い問題関心を育てる

- 1年次 オホーツク地域の自然や産業、歴史などを体験する実習や基礎ゼミナール
- 2-3年次 専門科目の修得とともに、「現場」重視のフィールドワーク
- 4年次 必修卒業論文に取り組み、問題解決と考え抜く力を付ける

- 必修/ゼミナールを基礎単位とした少人数制で討論とコミュニケーション力を身につけます
(1年次は基礎ゼミナール、2年次からは希望する研究室・ゼミに所属します)
- フィールドワークと現場体験を重視し、そこから解決すべき課題を発見
(所属ゼミでする基礎ゼミナールや自然資源経営学ゼミナール(一)(二)での現地研修など)
- 選択/自然資源経営学実務演習(一)(二)(三)
オホーツクの自然資源やフィールドを活用した多様な実践プログラムを選択して、1年次から参画できます
フィールド活動を通じて実践的な課題に向き合い、4年間の学びの集大成として卒業論文に取り組み社会で通用する力を伸ばします(読解力、論理的思考力、情報収集と分析力、問題解決力、プレゼンテーション力を鍛えます)

4年間を通じてフィールドワークとゼミで地域の「現場」を学びます



オホーツクの歴史
網走監獄博物館見学



知床世界自然遺産で
観光産業と「環境共生」を学ぶ



瀧湧湖・水鳥湿地センターで
動植物の生息環境を学ぶ



農産物の流通・加工を担う
JAの施設を見学

学科カリキュラム

●必修科目(選択必修科目含む)
●選択科目

1年次

- 自然資源経営学概論
- 経営学(一)
- 経営学(二)
- 簿記
- 基礎ゼミナール
- 自然資源経営学実務演習(一)

2年次

- 財務会計論
- 経営管理論
- マーケティング論
- 環境経済政策論
- 地域活性化システム論
- 地域産業創成学
- 経営組織論
- 商品開発論
- 観光ビジネス論
- 流通システム論
- 自然資源経営学ゼミナール(一)
- 社会と法
- 統計学
- 環境共生論
- 地域観光論
- 人的資源管理論
- 自然資源経営学実務演習(二)

3年次

- 空間情報システム論
- 農業経営経済論
- 管理会計論
- ベンチャービジネス論
- 財務諸表分析
- 地域環境ビジネス論
- ネイチャーツーリズム論
- 自然資源経営学ゼミナール(二)
- 現代経済学
- 社会調査論
- 生物産業経営史
- 自然資源経営学実務演習(三)

4年次

- 卒業論文作成演習
- 卒業論文
- 科学英語

起業

商品企画

ビジネス
展開

学びを活かして地域で活躍中!
当学科出身の卒業生たち



横井 大輝さん
(2020年卒業)
(株)大地のMEGUMI 副社長
卒業後、地域おこし協力隊を経て農業生産法人に就職し、副社長を務める傍らサウナ事業を立ち上げるなど新しい農業ビジネスを展開。

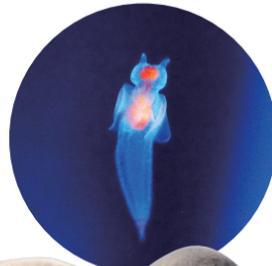


笠井 文考さん
(1996年卒業)
知床アルパ(株) 代表
環境共生型ニューツーリズムに取り組むネイチャーガイドとして、北海道・知床で起業。本学科のネイチャーツーリズム論を非常勤講師として担当。



池田 多岐さん (2020年卒業)
株式会社AIRDO 北海道室
北海道の魅力を伝える仕事をしたいと北海道の航空会社に就職。羽田空港での地上係員業務を経て、22年に地域連携の促進を目的に新設された部署に所属。就航地域での冬季施策の実施や包括連携協定の締結、商品を通じた北海道体験の提供を目的としたオンラインショップの商品調達に取り組んでいる。





持続可能なビジネス創出と
地域経済の活性化を目指す

2分野・4つの研究室

ネイチャーマネジメント分野

自然資源を活用し、持続可能で環境に配慮したツーリズムを含むビジネスを通じて、地域活性化を研究する分野

環境情報研究室

環境情報を活用し、持続可能な社会づくりを探究

北海道オホーツク地域は、世界自然遺産・知床をはじめとする豊かな自然環境が世界中の人々を魅了しています。この豊かな自然環境の保全と活用を考えることは、持続可能な社会づくりにつながっていますが、自然、経済、社会は相互に関連しており、SDGsとして国際社会共通の課題となっています。本研究室では、自然資源の価値の可視化や地域企業の環境経営の分析など、環境情報を活用して持続可能な社会づくりの実現に向けた研究に取り組んでいます。

想定される卒業論文テーマ

- 湧沸湖および藻琴湖流域における土地利用変化に伴う生態系サービス評価に関する研究
- CVMによる「ゼニガタアザラシと地域の共生」に対する経済的価値評価



地域観光研究室

豊かな自然を活用した農林水産業と観光の連携を学ぶ

自然資源を活かしたツーリズムは、観光客に大きな感動を与えるとともに、地域活性化にも寄与します。また、北海道オホーツク地域は、豊富な自然資源をベースとした農林漁業が展開されていますが、農林漁業の魅力が地域内外に周知したり、地域の担い手の確保に向けた取り組みとして、各地においては農林漁業と観光の連携によるグリーンツーリズムやマリンツーリズムの推進に力を入れています。本研究室では、自然環境と調和したツーリズムビジネスの創出の他、農林水産業と観光の連携に関わる研究を通じて、地域活性化に役立つ取り組みを実践します。

想定される卒業論文テーマ

- 知床の自然保護と観光振興の両立
- 道の駅による観光振興におけるニューツーリズムの推進



地域マネジメント分野

地域資源を活用し商品開発や事業化を通じたビジネス創造により地域産業の発展を研究する分野

企業経営研究室

異業種・地域連携を通じて地域企業の発展に寄与する

地域企業の経営・管理・分析を行うためには、商品開発から流通、マーケティングに至る一貫した取り組みを論理的に理解することが必要です。特に地域企業については、地域資源を活かした商品開発のみならず、異業種連携や地域連携（都市と地方の連携）などを通じた持続的な経営に向けた戦略が必要となります。本研究室では地域資源と風土を活用した新商品開発戦略や異業種連携、地域連携による地域企業の持続可能な発展を追求します。

想定される卒業論文テーマ

- 持続可能性からみた北海道オホーツク地域の木材加工業の現状と課題
- エゾシカ皮を利用した事業規模拡大の可能性



農業創生研究室

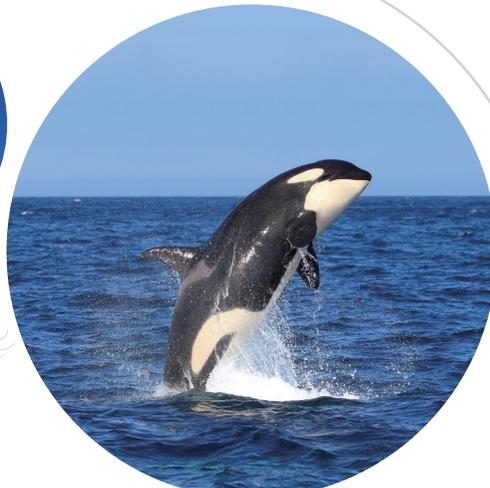
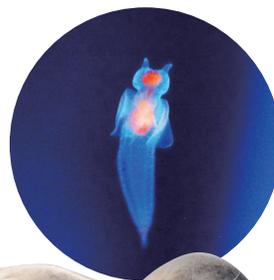
農林水産業における持続的な経営展開の方策を考える

農林水産業においては担い手不足が深刻化しており、持続的な経営の展開に向けて、従来の農林業の枠にとらわれない新たなビジネスモデル（観光農園、農家レストラン・カフェ、輸出など）の創出や安定的な経営が展開できる経営者の育成が求められています。本研究室では、持続的な発展が可能な農林漁業の経営者育成と農林漁業をベースとした新たなビジネス創出や起業、地域の経営者、人材育成に関する研究を行っています。

想定される卒業論文テーマ

- 中山間地域における持続可能な農業と内発型地域活性化に関する調査研究
- 地域における新規就農支援の重要性に関する研究





農 東京農業大学 北海道オホーツクキャンパス

生物産業学部 自然資源経営学科

〒099-2493 北海道網走市八坂196番地



ACCESS

女満別空港まで 札幌から 45分
東京から100分
名古屋から110分

網走駅よりバスで30分
女満別空港より車で20分

東京農業大学北海道オホーツクキャンパス 入学センター

TEL 0152-48-3814 FAX 0152-48-2246

E-mail nyushi01@nodai.ac.jp

自然資源経営学科ホームページ

https://www.nodai.ac.jp/academics/bio/o_bus/

